

公務員

2017年度 合格体験記 【滋賀県庁】

I.K.さん：学校教育 中等・理科専攻

【はじめに】

私は滋賀県庁の上級行政職で内定を頂きました。私が就職先として滋賀県庁を選んだ一番の理由は、ただ単純に、地元である滋賀県を愛しているからです。大学を卒業してから定年までの約40年、人生においても長い時間を「仕事」に費やすことを考えると、私は生まれ育った滋賀県で、滋賀県のために力を尽くしたいと思いました。

この就職体験記では、私が就職活動を通して得た知識や経験、これから試験を受けようとする後輩の皆さんにお伝えしたい事を書いておきます。

【就活の流れ】

(3回生)

10月 公務員試験に関する情報を集める。筆記試験勉強の計画を大まかに立てる。

11月 教養試験の勉強を始める。

3月 滋賀県庁の説明会に参加する。(三日月知事と直接話す機会があり、滋賀県庁への就職意欲がさらに高まる。)

(4回生)

4月 公務員模試を受ける。(LEC)

5月 公務員模試を受ける。(東京アカデミー)

6月 滋賀県庁・・・1次試験(教養、アピールシート) →合格

7月 長浜市役所・・・1次試験(教養) →合格

滋賀県庁・・・2次試験(プレゼン試験、個別面接、論文試験、適性検査) →合格

8月 滋賀県庁・・・2次試験(集団討論、個別面接) →合格、内定

国立大学法人・・・1次試験(教養) →合格

滋賀医科大学・・・2次試験(個別面接×2、集団討論) →合格、後に内定辞退

滋賀大学・・・2次試験(個別面接×2、集団討論) →不合格

長浜市役所・・・2次試験(集団討論、個別面接、論文試験、適性検査)

→合格、後に3次試験辞退

公務員試験は日程が被らなければいくつも併願できるので、県庁、市役所、国立大学法人などいくつかの試験を受験しました。本命のところではなくても、回数をこなすことで面接の練習になるので併願することをおすすめします。

滋賀県庁の教養試験は、思っているほど難しくはありません。難しい問題が解けるかどうかはそれほど重要ではないので、「決められた時間内により多くの問題に正解する」ことを目標にしましょう。「国立大学法人」と「市役所」の教養試験は、滋賀県庁の教養試験よりも簡単に感じました。教科に偏りがなく満遍なく勉強しておきましょう。

【筆記試験の勉強】

「教的処理」に関しては、どの自治体でも出題数が多いため、対策に時間をかけるべき科目だと思います。毎回すべての問題をしっかり解いていると膨大な時間がかかるので、問題を見てすぐに解法が浮かぶように、ほぼ暗記のような勉強の仕方をしていました。少なくとも問題集一冊を3周は繰り返し、問題数を解いておきたいところです。

私は理系なので高校時代に日本史世界史の勉強をほとんどしたことがありません。公務員試験でも「日本史・世界史」に関する問題は1、2問しか出題されない傾向なので、本来は捨てるべき科目でした。しかし、まったく勉強しない科目があると自分自身が不安だったので、過去に多く出題されていた分野のみ勉強しました。運よく勉強していた分野が出題されたので良かったです。が、「日本史・世界史」は勉強範囲が広すぎるので、理系の人には力を入れる科目ではないでしょう。「時事問題」については、『公務員試験 速攻の時事』（実務教育出版）という参考書を一通り読んでおけば、対策できると思います。

【面接の勉強】

面接は、自分が今まで「何を頑張って」、「どんな苦勞をして」、「その結果何を得たのか」、という、「人間性」を面接官に伝えることが大切です。そして、された質問をしっかり聞いて理解し、質問に対する適正な回答をできているかどうかも大切です。

私は公務員試験を受けるまで、人生で一度も「面接試験」というものを受けたことがなかったので、滋賀県庁での面接が人生で初めての面接でした。実際に面接を受けて感じたのは、「自分自身がどんな人生を歩んできて、どんな強みがあるのか」を知っている、つまり「自己分析」ができていないと、スムーズな受け答えが難しいということです。自分のことは自分が一番知っていると思いがちですが、周りの人に「自分はどんな人間か」など、尋ねてみるのもいいかもしれません。

面接でよく聞かれる質問は、「志望動機」、「自己 PR」、「これまでに力を入れて取り組んだこととその成果」、「その際に苦勞したこと」、「なぜ民間企業ではなく公務員なのか」、「なぜ市役所ではなく滋賀県庁なのか」、「職員として就きたい部署」、「その部署で自分の強みをどのように活かせるか」、「滋賀県のどのようなところが好きか」、「滋賀県の課題は何か」、などです。他にも、「近江八景」について聞かれたり、滋賀医科大学の試験では「1分間で滋賀医科大学を紹介してください」、という課題もありました。予想できる質問はあらかじめまとめ、返答する内容についてしっかり考えておいた方が良いでしょう。

【行政 B】

私は平成 29 年度試験から新設された、滋賀県庁の「行政 B」という枠で受験しました。この受験枠は、「行政 A」のような専門試験の代わりに、アピールシートやプレゼンテーションといった試験が課されるものです。アピールシートでは、「これまで自分が力を入れてきたこと」について、プレゼンテーショ

ンでは「滋賀の強み又は弱みについて」発表を行いました。私が所属する理科学研究室では、毎週のゼミでスライドを用いたプレゼンテーションをしていたので、プレゼンテーションに関しては自信がありました。研究室で学んだ「わかりやすく伝える技術」が、就職活動において大いに役立ったと感じています。

【さいごに】

滋賀県庁について何点かお話しておこうと思います。

滋賀県庁は同期が 120 名程度と(内、行政職は 50 名程度)、市役所や国立大学法人よりもかなり大きな規模の自治体です。1 年目の新規採用者は、半数が大津の本庁、残り半数が地方機関(長浜、彦根、東近江、草津、高島、甲賀など)へ配属となります。約 3 年ごとに部署の異動があり、様々な仕事を経験することになります。希望の部署に必ず就けるわけではないので、やりたいことが明確な人は、公務員ではなく一般企業に就職したほうがきっと幸せになれる。採用されてから 1 年目は、同じ部署の年の近い先輩が、仕事をサポートしてくれる「ブラザーシスター制度」というものがあり、研修制度はかなり充実しています。

教育学部を選んで入学し、そのうえで教員ではなく公務員の道を選択した場合、学内では受験仲間も少なく、その対策や学びの中で、どうしても受け入れなくてはならない孤独を感じると思います。それゆえ、自身で勉強の計画やスケジュールを立てて、自己管理することが非常に大切です。これは、社会人になってからも必要な力です。希望の就職先から内定を頂くことだけを目標とするのではなく、就職活動を通して今までの自分よりも一回り成長していけるよう、努力を惜しまず頑張ってください。

最後に、滋賀県庁に就職された先輩から頂いた言葉を添えて、就職体験記を終えたいと思います。

『4 回生は覚悟の年、突き進むしかない。』

2017年度 合格体験記 【公務員：滋賀県庁】

I.T.さん：学校教育 理科専攻

1) はじめに

就職活動は自分との闘いです。「どれだけ他人より勝っているか」も大切ですが、それを考えるにはまず、「自分のことをどれだけ客観的に評価できるか」にかかっています。自分の劣っている点と向き合うことは正直辛いですが、これができてはじめて闘いの場に立てるといっても過言ではありません。就職活動は、現地に行く前から始まっているのです。

2) 就活の流れ：試験内容および対策

3 回生	10 月	公務員試験について調べ、少しずつ勉強をはじめ
	1 月	各官公庁のホームページなどから、試験日・方法について情報を集める。 ガイダンスがあれば積極的に参加する。
	3 月	一部 SPI を 1 次試験（私の場合は大津市）にしているところもあるため、1 日 2 時間程度で SPI の勉強もはじめる。
4 回生	4 月	民間企業で就活をしている友達から、面接などについて少しずつ情報を仕入れる。 滋賀県警の願書提出（1 次）。
	5 月	滋賀県警・前段 1 次試験（教養・作文）→ 合格 滋賀県庁の願書提出
	6 月	滋賀県警・後段 1 次試験（体力・適性）→ 合格 滋賀県庁・前段 1 次試験（教養・専門）→ 合格 大津市の願書提出
	7 月	滋賀県庁・後段 1 次試験（個人面接）→ 合格 滋賀県警・2 次試験（集団・個人面接）→ 不合格 大津市・1 次試験（SPI, 適性）→ 合格
	8 月	滋賀県警, 後期試験願書提出（2 次）するも辞退 滋賀県庁・2 次試験（論述, 集団・個人面接）→ 合格, 内定 大津市・2 次試験（個人面接）→ 合格, のちに 3 次試験辞退

○滋賀県庁（行政 A）について

前段 1 次では教養試験, 専門試験（同日）でした。会場は龍谷大学で朝 9 時から 14 時頃までありました。スーツで行きましたが、受験者の 7 割ぐらいが私服でしたので、自分の受けやすい格好で行けばよいと思います。また、このとき事前にメールで配布される「面接カード」を印刷して、要所を記入、提出しないとイケないため、注意が必要です。ちなみに、後段 1 次の個人面接はこの筆記に通らなければ受けることができません。

後段 1 次の個人面接では、事前に提出した面接カードを元にして質問が出されます。逆に、書かれていること以外についての質問は、ほぼ皆無です（なぜ滋賀県を希望したか、など）。面接官は 3 人で約 20 分の面接になります。これに通れば 2 次試験になります。

2 次試験は論述試験および集団討論・個人面接になります。論述試験が先に行われます。論述のテーマは時事問題を反映したものが多そうです。論述の前に個人面接で使用する面接カードを 20 分程度で書かされるため、注意しておいてください。また、論述試験のあとに適性検査（「はい・いいえ」で答える検査、「実の生る木」を描く検査、ロールシャッハ検査）がありました。全部合わせても、13 時前には終わっていたので、行政 A ではお昼ご飯の持参は必要ないと思います。

論述試験の 1 週間後ぐらいに集団・個人面接試験があります。集団討論のテーマは事前に送付されます。私の時は「びわこの日について」でした。人数は 8 人前後になります。個人面接では、部屋ごとで訊かれる質問内容が違うようでした。時間は一人当たり 20～25 分です。私の時は、はじめに「近江八景をすべて言えますか」「自分の世界観が変わったことがありますか」という質問から入られました。その後は面接カードに書いてあったことから概ね聞かれました。唯一、「滋賀県の行政」についての質問がなかったことが意外でした。他の部屋では訊かれていたようです。

なお、面接試験においては、順番によりますが待ち時間が 1 時間以上になることがあります。そのため、送付される資料にも記載はありますが、本など時間つぶしの私物を持っていくことをお勧めします。

○試験勉強

試験勉強について、大学入試の時のようなモチベーションを保つのは正直難しいです。私の場合、自分の好きな科目を主にして、嫌いな科目は遊び感覚の教材を使っていました。以下、表にしてまとめます。断っておきますが、私自身は国家公務員試験を受けていませんので、そこを視野に入れている人は注意してください。地方上級程度であれば、行けると思います。

一般教養

国語	センター試験で使用した教材を使用。活字慣れのため、小説などの文庫本の購読。
英語	英字のニュースサイトの閲覧。
数学	SPI の非言語分野の参考書を使用。
社会	教員採用試験の社会科問題集を使用。
理科	特になし。

一般教養は、基本的に「センター試験の延長」と考えてもらえればよいと思います。センターで点数をとれていた人は、あまり苦労しないのではないのでしょうか。

専門試験に関しては、本を買って勉強しました。また、テレビや新聞などの法律関係の記事を見て勉強もしていました。これは、出題形式が具体例を使用していることが多く、本よりも抵抗が少ないため取り入れていました。日常的なことが、意外と役に立ちます。

○面接対策

面接について、一言でいうと「センス」です。題材を選ぶセンス、話し方のセンス、基本的にはこの 2

つにかかっています。題材とは、面接カード記入欄で「自分が今までに頑張ってきたこと」にかくものを指しています。

まず、題材の選び方です。個人的には、「一度はやりたいと思ったが、まだしたことがない体験」を選ぶのがいいと思います。具体的には、「外国への1人旅」、「日本一周」、「ヒッチハイク」などです。実行に移す場合に想定される具体的な経緯や苦難、達成したときの喜びなど、深く語れるところが強みです。また、既にそのことを知っている人からは共感され、知らない人には「もっと聞きたい」と思わせる意味でよいテーマ選択だと思います。他にも、珍しい部活動やボランティア活動の話題もお勧めです。自分は、高校時代、山岳部で全国大会に出た話と、大学時代の少林寺拳法部との違いをメインに書いたため、そこから派生する形で質問がきました。

なお、一般的な部活動やアルバイトは、あまり面接カードの題材として選ぶのはふさわしくないと考えます。理由は、他の受験者との差がでにくいからです。どうしても使いたい場合は、バイトリーダー等の責任ある立場を経験して…など、それ相応の役職がある場合にしておいた方が無難です。

話し方のセンスについてですが、いわゆる「おちついて、抑揚をつけ、軽いジェスチャーを混ぜつつ、相手の目をみて話す」ができていますかどうか、です。基本的なことですが、意外とこの点ができていないことが多いです。特に「おちついて」話すことは非常に大切です。相手の質問を予測することも大切ですが、いかに臨機応変に対応できるかの方が大切だと思います。これは練習して慣れるしかありません。私の場合は、企業で面接を受けたことがある人に練習相手になってもらいました。友達とする以外に、年上（40歳以上）の方と話をするというのも有効かもしれません。面接官がご年配というケースが多いからです。

以上をまとめると次のようになります。

- ・勉強は常日頃からの積み上げ、特に何気ないことに目を向けておくことが大切
- ・面接はセンス、題材選びから合否は決まる

3) 他の公務員試験を受けるメリット・デメリット

今回、私は滋賀県庁以外に滋賀県警察と大津市の試験を受けました。

多種の公務試験を受けるメリットとして、「1回でも多く本番の試験に慣れることができる」、「適性検査などを受けられる」、「面接回数が増える」などがあります。特に、模擬試験は予備校などで受けることもできますが、その時以上の緊張感を味わえるため、お勧めです。ただし、自分が通ることによって誰かを落とすことになるという事実を念頭にし、受けるのであれば本気で臨んで欲しいです。

デメリットとしては、まる1日がほぼつぶれること、体力・気力を使うこと、(場所により)交通費がかかることがあげられます。民間企業との二足の草鞋で頑張る人にとっては、面接日などと被ってしまうこともあるため、注意が必要です。

また、筆記試験は休日が多いですが、面接は平日のことが多いです。面接日移動の申し出は、正直あまりお勧めできないため、特に単位が怪しい人は気をつけて下さい。

デメリットも上げましたが、概ねメリットの方が多くには私は感じました。余裕があれば、国家公務員なども受けてみるとよいかもしれませんね。

4) まとめ

いろいろと書きましたが、一番大切にすべきことは「自然体」です。試験、面接があるから特別な日…と言う感覚を持ってしまうのは分かりますが、できるだけ日ごろの生活と変わらない行動を心掛けるべきです。それにより気分が安定して、自分の最大限を発揮できるようになります。

まず4回生の4月からは、早寝早起き朝ごはんを心掛け、規則正しい生活をしてみてはいかがでしょうか。

幼稚園・保育園

2017年度 合格体験記 【幼保：滋賀県（甲賀市）・幼保】

M.Y.さん：学校教育 幼児教育専攻

【はじめに】

私は甲賀市と守山市の二つの自治体の採用試験を受けました。実習での経験や通勤時間・試験日程・試験内容などを考慮に入れて、最終的にこの二つの自治体の採用試験を受けることに決めました。

幼稚園教諭・保育士は市町村単位で採用試験を実施しているので、試験日程が重なっていなければ複数の自治体を併願することが可能です。ただし、年度によっては採用試験を実施していない自治体もありますので、採用試験を受けようと考えている自治体のホームページをこまめにみて情報収集しておくことをお勧めします。

私の場合、第一志望としていた甲賀市から先に内定をいただき、守山市は途中辞退をしましたので、甲賀市の採用試験の内容や対策を中心にをご紹介します。

【試験の流れと内容】

○ 一次試験

日時：6月25日（日）

内容：教養試験：40問、120分

マーク式で、センター試験のようなイメージ。

数的処理や時事問題の割合が大きい。

専門試験：30問、90分

マーク式で、幼稚園・保育士の両方の内容を問われる。

時間は余裕あり。

○ 二次試験（実技試験）

日時：8月5日（土）、8月6日（日）のいずれか1日。

内容：集団実技（5人1組）

- ・わらべ歌遊びの模擬保育
- ・絵本の読み聞かせ
- ・保護者へのお知らせのポスター作り

全部合わせて90分程度で、試験管は3人。

○ 二次試験（口述試験）

日時：8月8日（火）、8月9日（水）のいずれか1日。

内容：個人面接

20分程度で、面接官4人・進行役1人。

事前に面接カードを提出していて、そのカードに書いた内容を参考に質問をされる。

- ・ 幼児教育職を目指したきっかけは何か。
- ・ なぜ甲賀市で公立の幼児教育職なのか。
- ・ 小学校教諭の免許を持っているが、小学校の試験は受けたのか。
- ・ 理不尽な要求をする保護者にどう対応するか。 など

【試験対策について】

○ 筆記試験

参考書を何回も繰り返し、解くようにしました。特に、数的処理は時間配分が難しいのでストップウォッチを使って時間を計り、確実に短い時間で解けるように練習しました。

教養試験・専門試験のどちらも、一つの参考書を答えを覚えてしまうぐらい繰り返し解いてしまったら、他の参考書にも一度目を通すようにすると良いと思います。同じような問題であっても「問われ方」が変わるだけで分からなくなってしまうこともあるので、様々な問題に触れておくことが大切だと思います。

参考書・教科書として私はALCの就職資料室や図書館にある本を活用していました。教養試験では時事問題に関することがよく問われたので、普段から新聞に目を通したりニュースを見たりして、社会の動きに関心を向けておく方が良いと思います。

○ 実技試験

実技試験は自治体によって内容が大きく変わります。自分が受けようと考えている自治体が、大学の実践論で配布していただける「教員採用試験受験者報告書」に載っていれば、それを参考にして試験対策をすると良いと思います。

甲賀市は過去に採用試験を受けた先輩がいなかったことから、大学には資料がなく、自分で知り合いに聞くなどして情報を集めるようにしました。また、他の自治体の試験を受ける人からどのような対策をしているかを聞いたり積極的に情報を集めました。その友人たちと時には一緒にダンスの練習をしたりして励まし合いました。

また、実技試験対策をする上で、「自分の引き出し」をたくさん作っておくことが大切だと思います。試験内容が直前にしかわからないことも多いので、普段から保育雑誌を読んで制作のアイデアを集めておいたり、音楽に合わせてダンスを考えたりしておくことが有効だと思います。そして、これらは実際に保育現場で働くことになった後でも役に立つことだと思います。

○ 面接試験

面接試験は主に集団面接と個人面接があります。甲賀市は個人面接だけでしたが、守山市は集団面接がありましたので、集団面接の練習もしました。

面接の練習をする上で苦労したのは、一つの質問に対して一分以内に簡潔に答えるということです。そのために、まずは実践論で教えていただいた、「面接で問われやすい質問」に対しての自分の考えをノートに書き出して、自分の気持ちを整理していきました。そして、次はその整理した文章を一分以内にまとめられるように、友達と順番にストップウォッチで計って話す練習をしました。幼稚園・保育所の試験を受ける人が全員集まれない時でも、声をかけあってその時に集まれる人だけで、何回も練習しました。

面接対策のために自分の気持ちをノートに書き出して整理することで、自分が理想とする保育や保育士になりたい気持ちを改めて実感し、試験へのモチベーションを上げることができました。

【さいごに】

私が採用試験を受ける上で、特に役立ったことは、実習やボランティアでの経験です。

筆記試験の勉強とは違い、実習やボランティアで経験を積むことは短時間で集中するだけではできないことだと思います。だから、時間がある1~3回生の間に自分から積極的に子どもたちとふれあう機会を作るようにすることをお勧めします。

私は4回生になってからも1週間に一度、地元の保育所にボランティアに行っていました。試験のプレッシャーに押しつぶされそうな時でも、元気に遊ぶ子どもたちやそこで働いている保育士さんの姿を見ることで、何回も励まされました。また、実際に面接で問われたことに関しても、実習やボランティアで経験を積んできたからこそ自信を持って答えることができました。

私は二つの自治体の試験を受けていました。甲賀市の二次試験対策をしながら守山市の一次試験の勉強もするというように、うまく両立させることが大変でした。限りある時間をどのように使うかが大切だと思います。

また、滋賀大学の中では、幼稚園・保育所の試験を受ける人は小学校や中学校の試験を受ける人よりも人数が少ないです。だからこそ幼稚園・保育所の試験を受ける仲間同士のつながりが大切であると実感しました。

幼稚園・保育所の試験は自治体によっては長期に及ぶこともあり、心が折れそうになるかもしれません。時々息抜きもしながら、子どもたちに囲まれて働いている将来の自分をイメージして、仲間と一緒に頑張ってください。皆さんのことを心から応援しています。